

## 科举制度と東アジアの学歴観 —文化伝統と社会制度の関係—

The Imperial Examination System and the East Asian View of Academic Credentials  
—The Relationship Between Cultural Traditions and Social Systems—

吳 玫瑾  
Wu Mei-Chin

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 博士前期課程

キーワード：東アジア、学歴観、文化、伝統、社会制度

Key words : East Asia, View of academic credentials, Culture, Tradition, Social system

### 1. 研究目的

科举制度の日中韓の歴史と現実に対する影響を歴史的に追跡する上に比較分析するのが本研究の目的である。本研究はグローバル世界において現代社会と伝統文化との関係に対する知的好奇心と学術的関心に応えるべく、漢字文化圏における伝統文化と現代制度との関係性を考察するものである。

現在の日本の教育では、漢字文化圏の他の国々と比較して、高い学位を目指すよりも、就職や名門校を目指す傾向があるように思われる。そして大学院を学問の目的で目指す人が中国や韓国と比べると年々減少しているようである。

科举制度が古代中国で官僚選抜制度・教育制度として機能し、漢字文化圏各国に少なからざる影響を与えていたことが周知のことである。そしてこの科举制度は日本との比較において、中国の近代化が遅れた理由のひとつにもなっていると指摘されている。

その影響は、現代の中国・日本・韓国にも及んでいるか、そしてどういうふうに影響しているかについての問題意識への実証研究は、まだまだ足りていないのが現状である。

### 2. 研究実施内容

本研究では、筆者が上海交通大学で1週間の交流を行い、上海交通大学の学生および上海政法大学の学生にインタビューを実施した。

まず、中国本土における大学入試制度「高考」の競争の激しさについて質問したところ、彼らは、中国の高考制度は省ごとに合格基準が異なると述べた。例えば、上海交通大学の場合、上海市の戸籍を持つ受験生と、内陸部の省（例：安徽省）の戸籍を持つ受験生では、合格基準となる得点が異なり、安徽省の受験生の方がより高い得点が求められる。また、それだけでなく、高考の試験問題も省ごとに異なる。

例えば、2024年には、天津市、北京市、上海市の受験生は、それぞれ独自に作成された試験問題を使用した。一方、新課程全国統一試験第I巻（新课标全国卷I）を使用した省には、浙江省、山東省、江蘇省、河北省、福建省、湖北省、湖南省、広東省、江西省、安徽省、河南省などがある。また、海南省、遼寧省、重慶市などでは、新課程全国統一試験第II巻（新课标全国卷II）が使用された。さらに、全国甲巻（全国甲巻）は、四川省、陝西省、内モンゴル自治区、寧夏回族自治区、青海省などで使用された。

このように、中国本土では各省の教育水準の違いに応じて、試験問題の難易度が調整されていることがわかる。

中国各省の試験院が発表した公式統計によると、2024年の全国の高考志願者数は1,342万人に達した。つまり、各省ごとの受験者数は数十万人から数百万人規模に及ぶ。一方で、各省にある優れた大学（中国で「985」や「211」と分類される大学）の受け入れ人数は数万～数十万人程度に限られて

いる。そのため、受験者数が非常に多いことから、同じ年に高校を卒業したすべての受験生が大学に進学できるわけではなく、多くの学生が浪人し、再び受験をする状況が生じている。

企業としては当然、優秀な人材を採用したいと考えるため、大学入試で希望する大学に進学できなかった学生は、より良い大学院へ進学し、修士号や博士号を取得することを目指す。また、もともと名門大学に在籍している学生も、こうした大学院進学者に遅れを取らないために、同じく大学院への進学を選択する傾向がある。その結果、2024年の大学院受験者数は438万人に達した。しかし、中国政府の公式統計によると、全国の大学院の合格者数はわずか130.17万人にとどまっている。

### 3. まとめと今後の課題

この調査を通じて、中国の学歴にはインフレの問題があることが分かった。高学歴者の数が多いため、後に続く人々も就職市場で競争力を失わないようにするため、進学を選択する傾向がある。しかし、この現象は2025年に変化を見せた。公式統計によると、2025年の大学院受験者数は388万人となり、減少の傾向が見られた。この現象は、今回上海での取材内容や過去の公式統計データとギャップがあるため、今後の研究では、経済発展

の状況や卒業生の就職状況などの要因に注目し、受験者数減少の実際の要因を明らかにしていく予定である。さらに、日本、韓国、台湾など他の地域と比較を行い、各国における学歴に対する考え方を明らかにする。社会制度の違いがどのように影響しているのかを分析し、最終的には、各国が中国の古代科挙制度からどの程度の影響を受けているのかについても考察する。

### 4. この助成による発表論文等

本研究における大学院受験者へのインタビュー内容は、予想通りの結果となった。しかし、中国各省の教育部が発表した2025年の大学院受験者数が仮説とは異なる結果を示したため、この現象をさらに探究し、合理的な分析を行う必要がある。そのため、筆者は今年、指導教授と再度議論を行い、中国へ赴いて本現象に関する追加調査を実施する予定である。したがって、本研究の学術的な内容は、現時点では未公開である。

### 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の令和6年度大学院生研究助成(B)(DB2414)「科挙制度と東アジアの学歴観—文化伝統と社会制度の関係」を受けたものです。